

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	皆川 茜
論文審査担当者	主査 森 泉 哲 次 副査 角 谷 眞 澄・菅 野 祐 幸
論文題目	Dermoscopic features of nonpigmented eccrine poromas in association with their histopathological features (無色素性エクリン汗孔腫のダーモスコピー像と関連する病理組織像)
(論文の内容の要旨)	<p>【背景】 エクリン汗孔腫は、汗管への分化を示す皮膚付属器系良性腫瘍である。掌蹠に好発し、臨床的には広基性から有茎性の紅色結節としてみられることが多い。そのため、無色素性悪性黒色腫や脂漏性角化症、基底細胞癌など多くの疾患との鑑別を要する。近年、皮膚科領域ではダーモスコピーという、偏光フィルターやエコージェルなどで角層の乱反射を除き皮膚病変を拡大して観察する診断方法が普及している。ダーモスコピーを用いると肉眼では観察しえなかった微細な血管構造やメラニンの分布様式などを検出することができ、その中のいくつかは疾患特異的な所見として診断に役立っている。しかし、エクリン汗孔腫のダーモスコピー所見については十分に解明されておらず、診断確定のためには皮膚生検が欠かせない。【目的】 エクリン汗孔腫に特徴的なダーモスコピー所見を解析し、さらに病理組織像との関連を検討する。【方法】 過去に当科で病理組織学的にエクリン汗孔腫と診断された10症例について、既知のダーモスコピー所見を調べた。ダーモスコピー及び病理組織像が典型的であった1症例の検体を用いて水平断切片を作成し、ダーモスコピー像と病理組織像との対比を行った。【結果】 症例は男8女2、平均年齢は56.3歳であった。病変部位は足5、下腿3、手1、背部1であった。10例中5例で血管所見を認めた。内訳はヘアピン血管と点状血管の組み合わせ2、ヘアピン血管と点状血管と線状不規則血管の組み合わせ1、線状不規則血管1、ヘアピン血管1であった。面皰様開大、稗粒腫様嚢腫、脳回転様外観、潰瘍はそれぞれ1例で見られた。また、エクリン汗孔腫に特徴的なダーモスコピー所見を10例中9例で見出した。紅色胞巣が網ひも状の構造で区切られる所見であることから、「カエルの卵様」外観と名付けた。このダーモスコピー所見は病変の頂点から300-400μmの深さで作成した水平断の病理組織像によく相関していた。すなわち、ひも状に配列した腫瘍細胞によって囲まれた浮腫状の間質が島状に規則正しく配列する病理組織像が認められた。間質内には多くの拡張した毛細血管が含まれていた。【考察】 エクリン汗孔腫では血管所見を認める症例が少ない。特に線状不規則血管などの多形血管である場合は、ダーモスコピーの血管所見のみでエクリン汗孔腫と無色素性悪性黒色腫を鑑別することは困難である。「カエルの卵様」外観は多くのエクリン汗孔腫で観察されるダーモスコピー所見であり、病理組織学的にはひも状に配列する腫瘍細胞とそれによって囲まれた毛細血管を含む真皮の間質である。悪性黒色腫に特徴的な所見である乳白紅色領域とは、胞巣の境界が明瞭で病変内に広く分布する点で区別できる。脂漏性角化症はヘアピン血管、面皰様開大、稗粒腫様嚢腫が特徴的である。脂漏性角化症におけるヘアピン血管は病変の辺縁に分布する傾向がある一方、エクリン汗孔腫では病変の随所に観察される点で異なる。基底細胞癌では樹枝状血管が特徴的であるが、今回検討したエクリン汗孔腫症例では1例も認められず、ダーモスコピーによる鑑別は可能であった。【結論】 多形血管を含む血管所見と「カエルの卵様」外観は、無色素性エクリン汗孔腫の診断において重要なダーモスコピー所見である。所見の感度特異度については今後の症例蓄積が待たれる。</p>